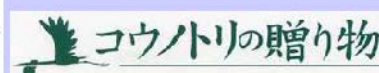


里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	経済的手法の導入
手法名	「コウノリ育む農法」 コウノリの経済資源としての活用
主体	豊岡市
背景 (地域の課題)	コウノリのような里地里山を生息環境とする生物との共生を図るには、里地里山の生態系全体の回復を図らなければならない。しかし、水田に昆虫や魚がたくさんいた農業近代化以前の状態に戻すのは不可能であるし、生物のために減農薬・減化学肥料などの栽培方法をとるのも、農家にとっては負担やリスクが大きく、生物との共生と農業者の利益の両立を図るのは困難である。
手法/方策の詳細	豊岡市では、コウノリと共生できる環境が人にとっても安全で安心できる豊かな環境であるとの認識に立ち、人と自然が共生する地域の創造に努め、コウノリの野生復帰を推進することとしている。この考え方で「コウノリと共生する地域づくり」を目指すにあたり、「コウノリは天然資源」との考えにたち、市で展開する取組をコウノリとの共生にからめることで、持続可能な地域づくりを推進している。 中でも農業においては、コウノリをシンボル及び指標として、コウノリの餌生物が生息する水田とするための環境保全型農業の技術を「コウノリ育む農法」として確立した。減農薬減化学肥料だけでなく、深水管理、中干し延期、堆肥や地元有機資材の活用など、水田生態系を回復するための技術を明確にした。その農法でつくった米はブランド化に成功、慣行米の2～5割も高い価格で売れるようになり、参加する農家も増え、農家への普及と米のブランド化は相乗的に増している。
手法・技術的視点	「棲み分け」でなく「共生」を目指し、現行の農業の中で共生を目指す取組により、野生生物との共生と地域活性化の両立が実現する。技術とその生態系への効果を明確にすることにより、ブランド化が図られ、普及効果がある。

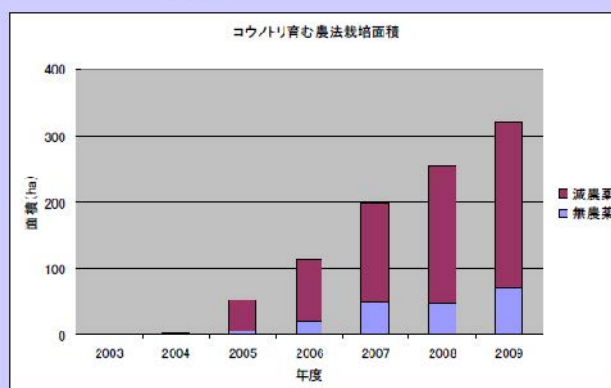
農業資源－コウノリ育む農法

- ・化学農薬削減
- ・化学肥料削減
- ・深水管理
- ・中干し延期
- ・堆肥・地元有機資材の活用
- ・ブランドの取得
- ・魚道、逃げ場の設置
- ・冬期湛水 など



たじま農業協同組合

豊岡市



資料: 但馬県民局

参考資料

里なび研修会in愛媛 大迫義人 兵庫県立コウノリの郷公園主任研究員